第４３回神奈川県病院学会
プログラム

メインテーマ

「いのち」を守る病院の未来
～災害医療と医療 DX～

日　時：２０２４年９月１８日(水)
１３：００ ～ １８：００

会　場：ホテル・ザ・ノット　ヨコハマ
横浜市西区南幸２－１６－２８
現 地 開 催(Web 配信はありません)

主　催：公益社団法人神奈川県病院協会

学 会 長：神奈川県病院協会 会　長　吉　田　勝　明
学術委員長：　　〃　　副会長　長　堀　　薫

協力団体：(公社)横浜市病院協会
(公社)川崎市病院協会
(公社)相模原市病院協会
三浦半島病院会
鎌倉市医師会病院会
湘南病院協会
湘南西部病院協会
厚木病院協会
大和・高座病院協会
小田原医師会病院会
足柄上病院会
神奈川県医療専門職連合会
(一社)神奈川県医療ソーシャルワーカー協会
(公社)神奈川県栄養士会医療事業部会
(公社)神奈川県看護協会
神奈川県公衆衛生協会
(一社)神奈川県作業療法士会
(一社) 神奈川県精神保健福祉士協会
(公社)神奈川県病院薬剤師会
(公社)神奈川県放射線技師会
(公社)神奈川県理学療法士会
(一社)神奈川県臨床検査技師会
(公社)神奈川県臨床工学技士会
(公社)全国病院理学療法協会神奈川県支部

プログラム・目次

時　　間	会　　場	内　　容　　＜掲載ページ＞
１３：００～ １３：１０	２階 キング＆ クイーン	開会 ・総合司会　　三角　隆彦　常任理事 ・開会の辞　　長堀　薫　　副会長 ・学会長挨拶　吉田　勝明　会長 ・来賓挨拶　　足立原　崇　神奈川県健康医療局長 　　菊岡　正和　神奈川県医師会長
１３：１０～ １３：５０		特別講演　　＜１ページ＞ •「災害時医療とデジタルトランスフォーメーション(DX)」 　地方独立行政法人神奈川県立病院機構理事長 　阿南　英明　氏
１３：５０～ １５：２０		シンポジウム　　＜２ページ＞ 「医療 DX の未来」 １　シンポジスト発表 •「多職種協働ネットワークの最適化 　ー人が真ん中になる医療を目指してー」 　社会医療法人石川記念会 HITO 病院理事長 　石川賀代　氏 •「大阪大学医学部附属病院 ＡＩ ホスピタルの取り組み」 　大阪大学大学院医学系研究科社会医学講座教授 　川崎　良　氏 ２　シンポジストによる意見交換
１５：２０～ １５：３０	休憩	
１５：３０～ １７：４０	２階 キング＆ クイーン	一般演題 　口演発表　　＜６ページ＞
	３階 ハート	一般演題 　ポスター発表　　＜８ページ＞
１７：４０～ １７：５０	休憩・一般演題表彰審査	
１７：５０～ １８：００	２階 キング＆ クイーン	閉会 ・学会長表彰　吉田　勝明　会長 ・閉会の辞　　沼田　裕一　常任理事

Ⅱ　特　別　講　演（４０分）

１３：１０～１３：５０　＜会場　２階キング＆クイーン＞

「災害時医療とデジタルトランスフォーメーション（DX）」

地方独立行政法人神奈川県立病院機構理事長
阿　南　英　明

プロフィール　（あなん　ひであき）

［職　歴］

新潟大学医学部卒業後、 藤沢市民病院にて初期臨床研修
藤沢市民病院、横浜市立大学救命救急センター勤務を経験し、藤沢市民病院救命救急センターの立ち上げに尽力。救急医療、災害医療の最前線に立つ。
藤沢市民病院救命救急センター長、診療部長を歴任した後
2019 年 藤沢市民病院副院長
2020 年 神奈川県健康医療局医療危機対策統括官
2021 年 神奈川県理事（医療危機対策担当）
2023 年 神奈川県立病院機構参与
2024 年 地方独立行政法人神奈川県立病院機構理事長(現職)

【その他役職等】

厚生労働省　新型コロナウイルス感染症アドバイザリーボード構成員（2021～2023 年度）
厚生労働省　日本 DMAT 検討委員会委員、研修インストラクター
神奈川県病院協会 顧問 兼 参与
神奈川県 顧問（健康医療政策担当）

【学会・資格】

東京医科歯科大学医学部臨床教授
福島県立医科大学医学部非常勤講師
日本救急医学会救急科専門医・指導医・評議員
日本災害医学会理事・評議員
日本社会医学系専門医・指導医
日本内科学会総合内科専門医・指導医
米国内科専門医会・内科学会（ACP）正会員など

新型コロナウイルスの経験は医療界におけるデジタル情報の重要性を体感させた。少子高齢化が進む社会において、災害時医療を実践する上でもデジタル運用の需要が高まっているが、令和 6 年能登半島地震においてそのジレンマを感じた。これまでも最新医療を展開する上で IT ツールやデジタル活用は無意識に行われてきた。しかし、デジタルトランスフォーメーション（DX）は情報に対する考え方に革命的な変化が起きるもので、従前の運用とは大きく異なる世界が展開される。災害時の準備のためにも日常医療における DX 革命を乗り越えて浸透させておくことが肝要である。

Ⅲ　シンポジウム（1 時間 30 分）

１３：５０～１５：２０　＜会場　２階キング＆クイーン＞

「医療×ＤＸの未来」

座　長　　神奈川県病院協会　副会長（学術委員長）
横須賀共済病院　病院長　　長　堀　　薫

プロフィール　（ながほり　かおる）
1978年 横浜市立大学医学部卒業
米国City of Hope ポスドク
山梨医科大学第１外科・横浜市立大学第２外科 講師
肝胆膵外科、腹腔鏡手術を専門とする
2001年 横須賀共済病院 外科部長
副院長等を経て2014年 より病院長
AIを中心としたデジタルトランスフォーメーションを用いて医療者の負担軽減を図っている。また、三浦半島での病院の機能分化とネットワーク化による連携事業をめざしている。

座長から一言

医師の働き方改革が実施される中、地域医療を支えるための質の高い医療の提供に向けた医療 DX の推進はますます重要な課題となっています。
今年度も昨年度に引き続き医療 DX をテーマにしたシンポジウムを企画しました。
今回は、ICT を活用することで、様々な専門職が連携して患者の健康を支える「多職種協働ネットワークの最適化」と「ひとが真ん中になる医療」の実現を両立させる病院経営に取り組んでおられる石川先生、大学病院において、安全・安心な医療、医療従事者が持つ可能性を最大限発揮する「人間中心の AI」を意識した AI ホスピタルに取り組んでおられる川崎先生の２人の先生方によるシンポジウムを企画しました。
ぜひともご堪能いただき、医療の質を高め、患者さんにもスタッフのためにもなる医療ＤＸの推進のための一助にしていただければと願っています。

１　シンポジスト発表（各３０分×２名）

（１）「多職種協働ネットワークの最適化
ーひとが真ん中になる医療を目指してー」
社会医療法人石川記念会　HITO 病院　理事長　石川賀代

プロフィール　（いしかわ　かよ）

【経歴】

1992 年　3 月　東京女子医科大学卒業
1992 年　4 月　東京女子医科大学病院消化器内科　入局
1998 年　6 月　　〃　　助手
1999 年　　大阪大学　微生物学教室　非常勤講師
2002 年　4 月　医療法人聚愛会石川病院　入職
2002 年　4 月　　〃　　内科　医長
2005 年　2 月　　〃　　副院長
2010 年　4 月　　〃　　理事長 病院長
※2013 年 4 月より、
　社会医療法人石川記念会　ＨＩＴＯ病院 へ名称変更
2019 年　〃　　理事長・石川ヘルスケアグループ　総院長
2023 年 10 月　一般社団法人 i shikoku holdings 代表理事

【公務】

日本医療法人協会　常務理事
地域包括ケア推進病棟協会　理事
日本リハビリテーション病院・施設協会　理事
日本医療経営学会　理事
医療トレーサビリティ推進協議会　理事
日本医療経営職域対策協議会　理事
日本医療マネジメント学会　評議員
日本医療マネジメント学会愛媛県支部　副支部長
全日本病院協会愛媛県支部　副支部長
日本社会医療法人協議会　理事
日本ゼロカーボン・ウェルフェア協議会　監事

医療現場では、医師、看護師、薬剤師、栄養士、理学療法士など、さまざまな専門職が連携して患者の健康を支える多職種協働のネットワークが重要です。しかし、このネットワークの構築にはフラットな院内コミュニケーションが不可欠であり、これにより、時代の変化に適応するマネジメントへの転換を目指しています。また多職種協働ネットワークの最適化には、ひとが真ん中になる医療の実現が欠かせません。ICT を活用することで、患者に向き合う時間や教育、多職種との連携、ゆとりのある環境を整え、患者のニーズや価値観に応える医療を提供する事が出来ます。　働き手確保が困難となり、複雑性が増す正解のない時代において、ステークホルダーの声を聞き、共感し、互いの信頼関係を築くことこそが、病院運営の持続可能性を確保する事につながっていると考えています。

本講演では、多職種協働ネットワークの最適化とひとが真ん中になる医療の実現を両立させる病院経営の戦略を紹介します。その戦略の柱の一つが、ICT の活用です。具体的には、１人１台のスマートフォンの貸与、ネットワーク型組織への移行、コラボレーションツールの活用などを行っています。これらの取り組みにより、多職種間のコミュニケーションや情報共有が円滑になり、患者のニーズに応じた柔軟な対応が可能となっています。これまでの知見や事例をもとに、ICT の活用による多職種協働ネットワークの最適化とひとが真ん中になる医療の実現の重要性と可能性をお伝えします。

（２）「大阪大学医学部附属病院 AI ホスピタルの取り組み」
大阪大学大学院医学系研究科社会医学講座教授
川崎　良

プロフィール　（かわさき　りょう）

【学歴・職歴】

1997-2008　山形大学医学部・眼科学講座・助手

2007-2012　豪メルボルン大学 Centre for Eye Research Australia・研究員フェロー

2013-2015　山形大学大学院医学系研究科・公衆衛生学講座・助教

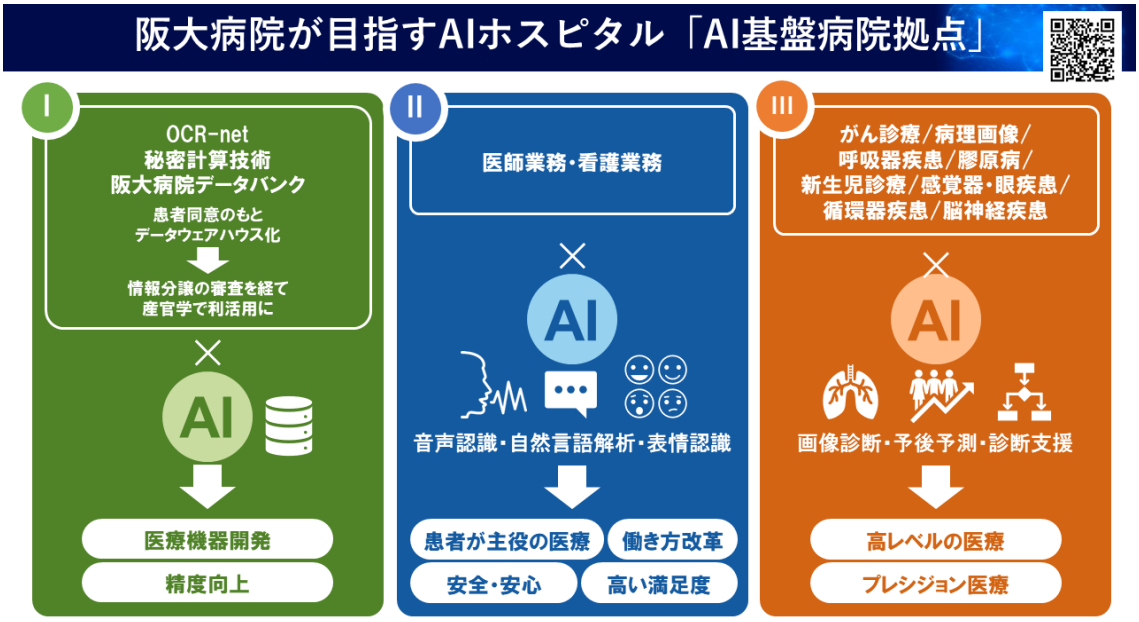
2015-2017　山形大学大学院医学系研究科・公衆衛生学講座・准教授

2017-2023　大阪大学大学院医学系研究科・視覚情報制御学講座・寄附講座教授

2020-2023　大阪大学医学部附属病院・ＡＩ医療センター・特任教授

2023-現在　大阪大学大学院医学系研究科・社会医学講座公衆衛生学・教授

大阪大学医学部附属病院（以下、阪大病院）は、病院が目指す姿として「Futurability: 全ての人が待ち遠しくなるような病院、未来の可能性を見つめ、新たな課題に新たな方法で解決し続ける姿」を掲げている。医療の進歩がすすむ一方で、専門化・複雑化した医療の負の側面もある。この状況を打開する上で医療分野での AI 活用が重要である。医療分野の AI と言えば画像診断や診断支援のプログラム医療機器が思い浮かぶが、それにとどまらず業務支援や患者サービスにも AI を取り入れている。安全・安心な医療、医療従事者が持つ可能性を最大限発揮する「人間中心の AI」を意識し取り組んでおり、本講演ではその事例を紹介する。近い将来には自然な形で AI が医療や業務に取り込まれていくと確信する。その一方で、医療の問題が技術的側面だけで解決することはなく、「AI を使いこなす医療人がそれぞれの持つ能力を最大限に発揮できる場」となることを目指している。本セミナーでは阪大病院が取り組む AI ホスピタルについてその現状から見えてきた課題、そして、展望を紹介したい。



Ⅳ　一般演題

１５：３０～１７：４０

口演発表　　１４演題
＜会場　２階キング＆クイーン＞
各８分（説明５分、質疑応答３分）

ポスター発表　１６演題
＜会場　３階ハート＞
各８分（説明５分、質疑応答３分）

※お名前は、発表代表者のみ記載させていただきました。
研究者等のお名前は、ホームページか、「第 43 回神奈川県病院学会／一般演題抄録集」（別冊）をご覧ください。

口演発表

① 横須賀共済病院の医療 DX　～現場の取り組み報告～

横須賀共済病院　病棟師長
鈴木　千恵　　（看護師）

② 地域包括ケア病棟における看護師としての役割
～在宅等への退院支援に向けた取り組みと課題～

金沢文庫病院　　看護部
平川　省吾　　（看護師）

③ 当院におけるポリファーマシー対策　～災害時の薬品不足を見据えて～

クローバーホスピタル　薬剤課
堤　泰輔　　（薬剤師）

④ WEB 研修会システムの導入が研修機会の地域格差に与えた影響

神奈川県病院薬剤師会　教育研修委員会
山村　翔　　（薬剤師）

⑤ 災害時の食事提供　～二段構えの準備と実践～

クローバーホスピタル　栄養課副主任
小林　マリ　　（管理栄養士）

⑥ 備蓄食の啓蒙活動について

横浜旭中央総合病院　栄養科
堀内　杏菜　　（管理栄養士）

⑦ 厨房業務改善の取り組み
～調理済みパッケージ「モバイルプラス」導入による効率化と食事満足度向上～

さがみリハビリテーション病院　栄養科係長
田村　亜希子　　（管理栄養士）

⑧ 救急車受入台数増加に向けた受入態勢の再構築
～地域医療への貢献を基にした取組みと成果～

中央林間病院　事務当直
高橋　裕太　（救命救急士）

⑨　頭部 CT におけるガントリー角度と被ばくについて

金沢文庫病院　　放射線科
敦賀　亮太　　（放射線技師）

⑩　相模原市透析災害対策協議会（相模原 DD-net）5 年間の成果
～5 年間の歩みと現在の課題～

相模原協同病院　臨床工学室次長
新美　文子　　（臨床工学技士）

⑪　臨床部門に属する事務職員としての医療職との関わり方

中央林間病院　メディカルクラーク室係長
柴田　里志　　（事務）

⑫　命をつなぐトリアージ

横浜旭中央総合病院　　総務課
恵島　直也　　（事務）

⑬　報告書確認対策における医療秘書科の取り組み　～RPA を取り入れながら～

横須賀共済病院　医療秘書科係長
坂本　康代　　（事務）

⑭　「身寄りがなく判断能力が不十分又は喪失した人への入院中に行う
相談支援（ソーシャルワーク）に関するアンケート」についての報告

神奈川県医療ソーシャルワーカー協会 会長
佐野　晴美　　（医療ソーシャルワーカー）

ポスター発表

① 災害が起きたとき医事課のやるべきこと

横浜鶴見リハビリテーション病院　　医事課主任
遠藤　夕香里　　（事務）

② 災害時における情報伝達ツールについて　～IP 無線アプリ活用の検討～

済生会横浜市東部病院　災害医療対策室
矢口　達也　　（事務）

③ IT-BCP 対策への準備の取り組み

菊名記念病院　医療情報システム室課長
和田　　耕一　　（事務）

④ 救急・集中治療診療の並列診療に対する重症患者管理ツール iBSEN の
有用性の検討と災害医療に対する今後の展望

横浜市立大学附属病院　救急科講師
小川　史洋　　（医師）

⑤ 当院検査課の災害対策への取り組み

横須賀共済病院　中央検査科
難波　真砂美　　（臨床検査技師）

⑥ 新人理学療法士の早期稼働を目指した取り組み

横浜鶴見リハビリテーション病院　リハビリテーション技術科主任
加賀谷　美紀　　（理学療法士）

⑦ 麻生総合病院⇔麻生リハビリ総合病院の病院連携

麻生総合病院　リハビリテーション科
神田　康平　　（理学療法士）

⑧ 令和 6 年能登半島地震災害支援活動報告
- 神奈川県理学療法士会事務局災害対策部の取り組みとその意義 -

公益社団法人神奈川県理学療法士会　　事務局災害対策部
下田　栄次　　（理学療法士）

⑨　令和 6 年能登半島地震での DMAT 活動報告

横須賀共済病院　リハビリテーション科
武田　将英　　（理学療法士）

⑩　神奈川県病院薬剤師会　専門・認定支援委員会の取り組み

神奈川県病院薬剤師会 専門・認定支援委員会
中島　研　　（薬剤師）

⑪　横須賀地域の災害薬事における病院薬剤師の役割
～能登半島の DMAT の経験より～

横須賀共済病院　薬剤科主任
島田　雅人　　（薬剤師）

⑫　長期入院のがん患者が地域でケアを継続して受けることの重要性
～緩和ケア認定看護師が退院後訪問を行って～

金沢文庫病院　看護部
後藤　直美　　（看護師）

⑬　災害時の取り組みと課題

クローバーホスピタル 看護部副看護部長
古川　幸代　　（看護師）

⑭　「新型コロナウイルス感染症に罹患した小児患者の受け入れ体制の構築」

横須賀市立うわまち病院　看護部小児医療センター
西川　美樹　　（看護師）

⑮　当病棟の 2021 年度～2023 年度のインシデントレポート件数の推移と
今後の課題

横浜鶴見リハビリテーション病院　回復期リハビリテーション病棟
濱﨑　凪沙　　（看護師）

⑯　メンタルヘルスプロジェクト２年目の取り組みを振り返る
～固定チームナーシングでリシャッフルを取り入れて～

金沢文庫病院　看護部係長
今　方美　　（看護師）

公益社団法人神奈川県病院協会
〒231-0037 神奈川県横浜市中区富士見町３－１
神奈川県総合医療会館４階
TEL　045（242）7221（代表）
FAX　045（231）1794